

酪農場のデータを使って乳牛の健康状態を改善する

乳牛は分娩前後 3 週間、いわゆる周産期に様々な健康上の問題が発生します。周産期における健康上の問題は牛群の乳量や農場の収益を低下させるため、無視することはできません。そこで、北海道立総合研究機構酪農試験場は周産期管理を改善するために、酪農場で得られる様々なデータを活用した周産期の飼養管理をモニタリングする方法について検討し、酪農関係者が簡易に周産期管理の問題点を把握可能なモニタリング法を提示しましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 飼養形態が放牧以外の酪農場 76 戸のデータを解析し、酪農場のクミカン収支および牛群の 305 日乳量平均と周産期の健康状態に関する指標 (以下健康指標) との関係性を調べました。健康指標の中で、分娩後 56 日以内の死亡による除籍 (以下死産) 割合は、クミカン収支と 305 日乳量平均を低下させました。
2. 牛群または個体において死産の発生に影響を及ぼすリスク要因について調査し、分娩後 56 日以内の死産は分娩後の周産期疾病の発生がリスク要因で、分娩後の周産期疾病は、分娩前の牛の状態や周産期管理の影響を受けていることを確認しました。
3. 常時モニターすべき項目は、北海道酪農検定検査協会がインターネット上で運用している”繁殖 Web DL”における死産割合、乳脂肪率異常割合および死産割合で、これらの数値が他農場より高い場合は周産期管理に問題がある可能性が考えられます。この場合、まず産褥牛の観察を行なって体調の悪い牛の早期発見と治療を行ないます。
4. 並行して農場の診療記録等を調べ、どの周産期疾病が多いのか確認します。例えば、第四胃変位治療割合が高い場合、乾乳期に過肥牛が多いことが考えられます。問題点をある程度特定したら、手を付けやすいところから飼養管理を改善していきます。

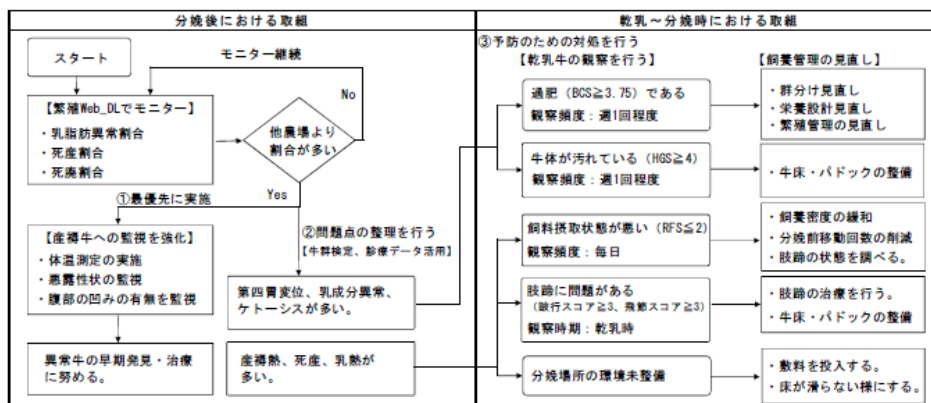


図 1 周産期の健康管理モニタリング法 (BCS: ボディークンディションスコア (太り具合の指標))

☆活用面での留意点

1. 草地型酪農地帯で牛群検定と家畜共済を利用し放牧以外の酪農場のデータを用いています。
2. 詳しくは、北海道立総合研究機構酪農試験場乳牛グループ (現 畜産試験場) 小山 毅に問い合わせ下さい。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)